

御礼ならびに事業報告



2007年度 (社)人吉青年会議所
第49代 理事長 中神 寿一

『 中 今 なかいま 』
～ JAYCEE が護るべきもの
継ぐべきものを未来へ ～

2007年度(社)人吉青年会議所第49代理事長を仰せつかり無事終えようとしています。本年度は『中今なかいま～JAYCEEが護るべきもの 継ぐべきものを未来へ～』の基本理念のもと、「今・この瞬間が自分や地域の未来を構築し方向づけていくものだ」を心に刻み、地道な活動ながらも地域に根付いた運動を展開してまいりました。人吉青年会議所初のサラリーマン理事長として一年間懸命に活動できたのも、理事役員をはじめとするメンバーの皆様並びに人吉JCシニアクラブ、OBの先輩方、関係各位のご協力とご支援はもちろんのこと、勤務先である(株)水郷堂の宮本稔也社長をはじめとする普段一緒に働く仲間の理解があってからこそだと心から感謝の意を表しますと共に、一年間の事業報告をさせていただきます。

理事長予定者としての時期

8月通常総会での2007年度理事長の承認を受け、予定者としての2007年度体制が2006年度事業と同時進行でスタートしました。自分では「うまくいく」と思っていた理事予定者会議も最初はスムーズに進行できず歯痒い思いもしました。始動こそ戸惑いを覚えたものの、理事長所信を基に2007年度の方向が決まっていくという緊張感のなか白熱した議論が展開され、あらためて理事長所信の大切さを感じ身の引き締まる会議のスタートとなりました。

また理事長としての心構えを学ぼうと10月全国会員大会郡山大会に初参加し、12月にはこれも初めて姉妹JCである韓国南大邱青年会議所創立32周年式典並びに次年度就任

式(卒業式)に参加して熱烈歓迎を受けました。あらためて先輩方から受け継いできた民間外交の力と大切さを感じました。同期となるオウ、ジュヨン会長と話をする中では、姉妹締結30周年に向け、「人吉JCと南大邱JCの絆を大切に、これからも永遠の友情を続けていこう」と意思の確認をしてまいりました。

同時期には、2010年度全国会員大会誘致をめざす北九州JCの中柴崇理理事長と九州地区協議会の植村敏満会長、福岡ブロック協議会の田中郁三会長が人吉JCを訪問されました。九州JC一丸となって大会誘致をしたいという中柴崇理理事長の情熱は私だけでなく、九州JCの各理事長にも伝わり、77LOMの一員として人吉JCも応援していく約束を致しました。最終的には2010年度誘致はできませんでしたが、その熱意は九州地区内に伝播されたはずです。

あっという間に予定者期間の4ヶ月が過ぎ本格的に2007年度が始まりました。

各種大会・対外事業

青年会議所主体の大会参加では、裏千家今日庵を訪問した1月の京都會議にはじまり、3月日本JC総会、ハングル語で来賓挨拶をした4月の韓国南大邱青年会議所共同開催のテコンドー大会、宇城JC主管で開催された6月熊本ブロック会員大会、7月サマーコンファレンス2007(横浜)、8月には本年度2回目の訪問となる今日庵と全国茶道同好会連絡協議会の全国の集いに参加、9月九州地区大会都城大会、第56回全国会員大会帯広大会、12月南大邱青年会議所創立33周年式典並びに次年度就任式(卒業式)訪問など、年間を通じ各地青年会議所周年式典参加等々、メンバーと共に世界をまたにかけ行動できましたことは多くの気づきと友情を与えていただきました。特にブロック大会と九州地区大会は大会参加率が例年になく高く、九州地区大会都城大会は会員拡大10パーセントオーバー達成の褒賞もいただきました。また74パーセントの参加率で人吉JCのメンバーの意識の高さと団結力が実証できたのではないかと思います。

2006年度11月開催予定だった、「第12回人吉球磨キッ

ズサッカー大会」は2月の開催となりました。会議や案内等が後手にまわった事と各園行事と重なったことなどで、参加12チームと例年よりも小規模大会となりましたが、子ども達の笑顔と元気な姿に地域に根付く継続した青少年育成事業の大切さを痛感いたしました。12年間でのべ2200人参加という継続事業でしたが、キッズサッカー大会の方向性と組織のあり方、運営方法を模索した結果、残念ながら人吉球磨キッズサッカー運営協議会の解散となりました。幸いにも総合型地域スポーツクラブの定着と青少年の健全育成を目的とした「NPO法人ひとよしフットボールクラブ」設立により、そこに大会を移管して、12月には第13回大会の開催に至りました。人吉J.C.としても今後も引き続き支援をしていけるよう次年度に引き継いでまいります。

昨年、映画「北辰斜にさすところ」の撮影が人吉球磨地域にてあり、本年はその上映会が6月に開催されました。昨年に引き続き撮影の協力団体の方々と一緒に上映の支援を行い、当日は神山征二郎監督はじめ関係者の皆さんをお迎えして盛大な上映会となりました。昨年からの支援体制はJ.C.単体ではなく、他団体や行政と連携しながらの活動となり官民一体となった取組みが具体的にあらわれた運動であったと思います。

そのほか、人吉市や球磨地域振興局をはじめとする行政や各団体からの審議会委員など22の委嘱を受け、様々な会議に出席し人吉青年会議所の代表者として意見を述べさせていただきました。自分の意見としてよりも青年会議所としての意見として会議が進んでいくことを考えたとき、理事長として公的な立場で参加させていただくことは、得意分野だけでなく様々な分野に興味を持ち勉強しなければならないのだと未熟さを感じると同時に、修練の場と成長するありがたい機会を与えていただいたと感謝しております。しかしその情報すべてを全メンバーに還元できなかったことは申し訳なく思っております。また会議等に参加できないときには田上明仁直前理事長、田中聡副理事長、鳥越英夫監事、馴田崇晴専務理事はじめメンバーの皆さんに助けていただきました。本当にありがとうございました。

総務渉外委員会 郷土に愛される組織づくり

総務渉外委員会は網屋尋土副理事長統括のもと、田中伸幸委員長のまじめで細やかな気配りで、対内的な例会や総会がスムーズにできるよう縁の下から支え、目立たない活動ながら非常に重要な役どころとして活躍していただきました。事務局と連携をとり、年明け前から基本資料の作成やホームページの準備など、効率とその効果を考えながらの活動になったと思います。残念なのはホームページの更新が5月にストップしてしまい、内外への情報発信と開かれた情報公開ができなかったことです。次年度以降は日々の情報発信を期待いたします。

1月新年会、南大邱青年会議所訪日対応では、直前になって通訳が変更となり慌ただしいなかでオウ、ジュヨン会長はじめとする10名のメンバーをお迎えし、一泊の人吉滞在でしたが民間外交として親睦を深めることができました。2月には八代J.C.、水俣J.C.、人吉J.C.で3LOM合同例会を人吉担当で開催し、中野信二熊本ブロック協議会会長をはじめブロック役員の皆さんをお迎えして事業方針と事業内容を確認すると共に、ブロック内のメンバーとも親睦を深めることができました。6月は厄入り事業をシニアクラブの先輩方にもご案内して開催し、5名の厄を全メンバーでからお祝いをいたしました。同じく6月に次年度役員選考委員選出例会で7名の選考委員を選び、次年度の体制を決めるべく選考委員会の立ち上げを行い、8月の通常総会までに5回の委員会を開催しました。例会中に7月度例会のディベートに関する勉強もを行い、講師として瀬戸弘先輩からアドバイスをいただきました。8月通常総会において本年度副理事長でもある田中聡君を第50代理事長予定者として全会一致で決定し、また次年度理事役員予定者も無事決定することができました。その後残り1ヶ月となった2007年度最後の12月度卒業式例会では、田上明仁君、宮本浩光君、那須弘紹君、尾方恵一郎君、下田文仁君の5名全員に挨拶を頂き、卒業式が開催できました。5名の卒業生にはJ.C.ライフの中で人吉J.C.に対してはもちろん、地域貢献にもご活躍いただいたことと思います。これから

はシニアクラブの先輩としてご指導いただきたいと思います。また望年会においては私の為に二つのサプライズ企画を用意していただき、卒業生や先輩方、家族の皆さんを前にして大変恐縮しましたが、素直にうれしく思います。メンバーの皆さんありがとうございました。

一年間の中でも特に前半部分では慌ただしい活動で地道な展開でしたが全てが2008年度に繋がっていく大事な事業であったと思います。

社会開発委員会 郷土を活性化させるまちづくり

社会開発委員会は宮山賢副理事長統括のもと、石蔵宗久委員長のバイタリティー溢れる行動力と高い情報収集能力をもって球磨地域の歴史と伝統、文化の継承と地域住民への自立したまちづくりの道筋を示す事業の展開を行いました。全ての事業が対外的なもので、他団体や関係者との連携や綿密な打合せが重要な委員会活動となりました。

認証月である3月には「社団法人吉青年会議所認証記念お茶会例会」を青井阿蘇神社境内にて一般の方にも開放して開催いたしました。毎年お世話になっている裏千家淡交会熊本支部さながら青年部の久保田宗弘氏に例会1ヶ月前から10回の御点前の指導をしていただき、当日も淡交会の皆さんにご協力を仰ぎ、100名を超える一般の方や観光客にお茶を楽しんでいただきました。羽織・袴のいでたちで気を引き締め、時折吹く風の中でも何とか8回のお呈茶を無事にできましたのも淡交会の皆さんと青井阿蘇神社のご協力の賜物だと感謝いたします。メンバーや地域の方ももちろんのこと、私自身が日本の文化に触れることのできた良い機会でありました。1995年から始まったお茶会例会(事業としての開催もあり)も今回で13回目となり、人吉J Cならではの歴史ある事業としてこれからも継続していただきたいと思います。

4月には本年度最も大きな事業で影響も大きかった「人吉市民と約束！ローカルマニフェスト型公開討論会」を開催いたしました。昨年の計画段階から熊本J C主催のローカルマニフェスト型公開討論会の見学や、コーディネーター

と協力をお願いした「ローカルマニフェスト推進ネットワーク九州」代表の神吉信之氏と何度となく打合せを重ね、また当初は委員会事業としての取組みでしたが、人吉J C全体での取組みとして5ヶ月半にわたる長期間の準備のうえでの開催となりました。メンバー自身の本事業に対する意識醸成の勉強会から始まり、候補者へのマニフェスト作成・広報・マスコミ取材・アンケート作成など様々な経験をさせていただきました。メンバーの頑張りがあって、開催当日は5名の候補者全員が出揃い、候補者のマニフェストによる討論会ができました。会場には約1150名の住民が来場し、地域のリーダーを住民との約束であるマニフェストによって選び、地域の問題と将来への責任を考えるすばらしいきっかけ作りになったことは、行政と住民のパイプ役として我々の果たした役割は非常に大きかったと考えます。今後も地域のあり方を中核から支え責任世代のJAYCEEとして、次年度以降のマニフェスト検証やマニフェストサイクルの確立に向け努力していきます。

9月には熊本県指定重要無形民俗文化財のウンスンカルタ遊びを地域の貴重な文化遺産として人吉球磨全域に広め、地域振興に役立つきっかけづくりとして「地域伝統文化ウンスンカルタ体験」例会を開催しました。この事業は以前に2回人吉J C内において勉強会をした経緯を先輩方から伺い、今回は「鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会」の立山茂氏を講師にお招きし、10名の指導員に手ほどきを受けながらの一般公開例会となりました。約80名に参加いただき、その中で子どもたちが15名でしたが、伝統文化の継承者育成の観点からは一定の役割は果たせたと思います。この遊びを通じて地域の新しいコミュニティ形成やまちづくり、観光にも繋がることを期待いたします。

青少年育成委員会 郷土愛を育むひとづくり

青少年育成委員会も宮山賢副理事長統括のもと、下田文仁委員長の高校教諭として教鞭をとられた経験を十分に活かし、積極的に学校や教育関係団体へのアプローチで、人吉球磨の将来を担う子どもたちへの人材育成を中心に事業

展開を行いました。

5月には「第3回わんぱく相撲人吉場所」を開催し、人吉市教育委員会や人吉市、球磨郡の各PTA連絡協議会、人吉少年相撲クラブの丸尾聖治氏の協力を得て、相撲を通じて子ども達の体力増進と社会生活に必要な礼節を学ぶ機会をつくる事ができました。参加者も年々増加し今回は昨年の倍となる59名のわんぱく力士の参加となりました。3名の学年優勝者は「第23回わんぱく相撲全国大会」に出場し、6年生の丸尾泰士君は個人戦でベスト16、団体でも119チーム中34位の優秀な成績を残してくれました。それよりも子どもたちにとって国技館で相撲をとり、相撲部屋に宿泊するという貴重な体験ができたことは思い出に残る大会になったことと思います。3回目の大会で運営自体はスムーズな進行でしたが、優勝者が諸事情により全国大会に出場できなかつたり、運営経費や協力団体との連携など課題が出てきたことも事実です。3年間継続して開催しましたが、大会開催に至る経緯を踏まえ、公益性を見据えた市民運動の展開を考えて原点に立ち、検討しなければならないと思います。

同じく5月に「近現代史学習例会」を開催しました。歴史認識や歴史観には個人によって様々な意見がありますが、将来世代の子どもたちに日本人としての誇りや生き方を示すには、まずは私たち自身が日本の近現代史をしっかりと学び考察して、メンバー自身の歴史観の確立のきっかけをつくることから始めるのが先決です。特に本年度は日本青年会議所の中学生用教育プログラムである「誇り」のDVDを活用し、対内での歴史の問題に取組みました。田上明仁直前理事長のコーディネートのもと下田文仁委員長、溝口幸治監事2名をパネリストとしてディスカッション形式で行いましたが、メンバーを交えた討論や議論が少し足りなかったのは残念でした。

11月には「ふるさと発見！相良藩こども塾」を開催しました。1990年から16年間続いた人吉J.C.と球磨地域の広域連携事業である「球磨川大学」の子ども版をイメージして企画し、学校教育では学ぶことが少ない地域の歴史、風

土、文化を5名の専門の講師から学びましたが、参加した29名の子どもたちにとっては郷土愛を育む良い機会の提供ができたと思います。実施に当たり学校側との折衝や副読本の作成に関しては、下田委員長の経験を十分に発揮していただき、また人吉球磨独自の教育プログラムの策定において教育関係者からもお褒めの言葉をいただきました。これからも地域の教育活動に直接的、間接的に、また積極的に寄与していきたいと思います。3つの事業とも中身の濃いすばらしい運動となりました。

創立50周年準備委員会 郷土を牽引するリーダーづくり

創立50周年準備委員会は田中聡副理事長統括のもと、加登住亮委員長を中心に、楽しい中にも人吉J.C.の新しい創造と活性化に向けて具体的なアクションを興し、メンバーへの研修と次年度の創立50周年に向けた意識醸成に努めた事業展開をしていただきました。

4月度例会では「公益社団法人に移行したらどうなる？」と題し、宮崎ブロック協議会直前会長の加藤茂樹先輩を講師としてお招きし、講演例会を開催しました。今までも十分公益的な活動・運動をしてきましたが、公益法人制度改革が進む中、青年会議所が率先して公益社団法人格取得の勉強をすることは、地域に開かれた運動を展開する私たちにとって必要な取組みとなります。即効的な成果は出にくいですが、人吉J.C.の公益性を見つめなおす節目となり、今後の事業展開にとって有意義な学習となりました。

7月には個人の問題解決能力アップの為の研修として「ディベート例会」を開催しました。準備段階から講師の瀬戸先輩には多忙にもかかわらず委員会やリハーサルなど5回も足を運んでいただきました。「人吉球磨にカジノは必要である」の論題で行いましたが、各委員会ごとに事前に作戦を立てるため、その情報収集とチームワークが重要となり、そのため当日は70パーセントの高い出席率で真剣なディベートができました。今回の研修の成果をメンバーの事業所においても発揮できるよう活かしていただきたいと思います。

10 月度例会には我々の先輩でもあり 4 月の人吉市長選挙において初当選された田中信孝市長を講師としてお招きして「田中市長と大いに語ろう」と題してシニアクラブの先輩方も交えて意見交換会を開催いたしました。JC 運動を展開する中で、人吉 JC と行政との接点を見つけ人吉球磨の現状を把握し、将来に向けどう変えていかなければならないかの話伺いました。球磨地域での広域的な活動や運動を展開しなければならない人吉 JC としては他町村首長も交えての事業となればよかったです、それは次年度以降の反省として引き継いでまいります。

11 月度例会では「人吉 JC アーカイブ～人吉 JC の歴史を学ぶ」と題し、人吉 JC シニアクラブから講師として小林祐介シニアクラブ会長はじめ岩本泰典先輩、松田譲一先輩、堀尾謙次朗先輩、中島祐一先輩、瀬戸弘先輩をお招きしてテーマ別に人吉 JC 歴史談義をしていただきました。在籍年数が浅いメンバーが多い中、人吉 JC 設立からの歴史と伝統を振り返ることは現役メンバーにとって新たな気付きが生まれたはずです。この委員会での事業全てが次年度の創立 50 周年に向けて、リーダーシップ育成に寄与できたと考えます。

事務局

青年会議所の運動や活動を行う上では円滑な会の運営が求められます。理事予定者会議から数え 16 回の議事録作成や理事会資料作成、三役、理事会、各例会の設営には本当によくがんばっていただきました。馴田崇晴専務理事を筆頭に深野誠一事務局長、今林正財政局長、永江一成事務局次長、山口智充事務局次長また事務局員の赤池貴美子君、一年間運営の要として業務の運営を一生懸命にやっていたことに改めて敬意を表します。ありがとうございました。本年度事業には特に交流事業は予定しておりませんでした、日頃メンバーを快く JC 活動に送り出し、我々の運動に対して理解をしていただいている家族の皆様に対しての恩返しの意味も込めて、事務局企画による JC 交流事業「夏だ！川でパーベキュー」を行いました。夏休み

ということもあり、子どもたちも交えての川遊びで楽しい時間を過ごすことができました。

さいごに

2007 年度は私にとっては非常に短い時間でありました。短かったと言うよりもっと時間があるならば、まだまだ遣り残したことがあるというのが正直な気持ちかもしれません。しかしながら与えられた時間の中で一年間懸命に前に進んでまいりました。自分の知識の無さと的確な判断ができないことに対してふがいなさを覚え悩んだ時期もありましたが、ここまで無事に、そして充実した 2007 年度の終焉を迎えることができるのもメンバー全員の支えがあったからこそだと感謝の気持ちに絶えません。本当に皆さんありがとうございました。「明るい豊かな社会の実現」を目指す我々 JC は自らが「明るい豊かな J A Y C E E」でなければなりません。(社)人吉青年会議所には青年としての英知と勇気と情熱を持った行動が求められています。公益性のある事業展開が求められていく今だからこそ、メンバーひとりひとりの活力の向上と切磋琢磨しながらの相互交流が重要になるのだと考えます。

2008 年度は(社)人吉青年会議所創立 50 周年という大きな節目の年となります。次年度田中理事長のもと「原点回帰」をキーワードに活動や運動が展開されます。残された JC ライフの中だけでなく、今後さらに「明るい豊かな社会の実現」に向け「中今」を心に刻み皆さんと共にがんばってまいります。